

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は肺の生活習慣病です

COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは徐々に進行する呼吸器系の疾患です。聞きなれないかもしれませんが、日本での死因の第10位、全世界においては死因の第4位！に位置する重大な疾患で、今後も増加することが予想されています。

COPD とは？

肺気腫や慢性気管支炎によって、慢性的に気道の通過障害がおこります。進行すると、肺胞が壊れ呼吸機能が低下し、体は酸素不足に陥ります。

どんな症状がでるの？

始めは慢性的に咳や痰が多いことに気付きますが、進行すると息切れによって日常生活に支障がでます。また、体重が減少してきます。酸素吸入が必要になることも多いです。さらに、気管支炎や肺炎の合併率が高くなり、高齢者ほど肺炎での死亡率が増加します。

病気は緩やかに進行していくために、病気の初期には自覚症状に気付きにくいのですが、症状が出現したときにはすでに病状は進行しているのです。

喫煙は病気の進行を早めます。

この疾患は90%以上が喫煙が原因とされています。喫煙者で咳や痰が多い人は、COPDの予備群です。特に40歳台の方で、慢性的な咳や痰がある人は「タバコのせい」と思って決して放置しないで下さい。この時点で、禁煙が必要となります。喫煙を続けると、病気の進行を早めてしまいます。また、喫煙者ですでに息切れが出現している人は吸入薬などの治療が必要になります。当然、禁煙も必要です。

COPDについて詳しくお知りになりたい方や禁煙に興味のある方は、内科担当医までお知らせください。

(文責 平木場)